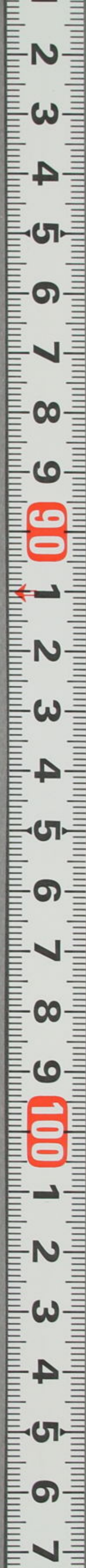




^13
3843
2



内へ13
號 3843
卷 2

繪本西遊記初編卷之三

前章之下



孫悟空そんごくうの顯聖けんせい真君まじんが大神たんでん通とに責せ討たうれ空中くうちゆうに飛とでお行ゆ方かた
 と限かぎらなりし時とき真君まじん李り天てん王わうが在いまと所ところ小こ来きり悟ご空くうが在あるを同どう
 入いりし李り天てん王わうの照あ妖よう鏡けいと攀ありて四し方かたと照ありし見み大だいきん笑わらひ
 けの猴こう圍ゐと出いでし真君まじんの住すむ所灌かん江かうにの近ちかき所を行いくを真君まじん是これを
 やりてし勿な心こころちち中ちゆう天てんへの身みと躍とらせ灌かん江かうはは急いそぎぎまま入いりし其その時とき悟ご空くうはは
 ののがの身みと真君まじんにままに廟びやう中ちゆうにに産うまれしとつつらら真君まじんのの回まわりを
 着きてし如ごとくく意い捧ほうとと拿とりて跑はしり出いでし真君まじんのの追お討たうむを
 華か果くわ山さんへへ立たちあがり追おつつくく山さん我われららはは時とき天てん上じやうへへ玉ぎよく帝ていととらら

繪本西遊記初編卷之三



悟拋金老
空擊琢君



軍の形勢と入る孫悟空とて観音菩薩太上老君と付ひ南天門
 に出御あり遙に下界と入ると後一は李天王哪吒太子は
 照妖鏡と敬手て空中にまゝばらまらくんの天将華果山の四方
 と十重二十重のとりかこも真君と悟空の真中にけりて相親ひ
 つり果ぶきともんえざりたり観音菩薩これとて携へて
 水瓶を悟空が頭に投的んとし玉の内に太上老君おととめ
 むひの瓶原末磁器なれば渠が鉄棒におあてたらんよの忽ち
 微塵に碎くべし我一箇の圈子と持てり是と金鋼珠ともやと
 金鋼套とも名づけて不思議なる寶貝なりこれとてつては
 猴とおべしとて下界に向く抛下し玉のあやまらば悟空の頭
 の正中に撲的と中もぶさしもの悟空足とももばらまらむけ

怪まらり其時真君の細大流末りて腿と啞えり引たを
 せば四大尉二羽軍真君と共にとりかこたつて遂に悟空を
 高き小舟にいししし屍骨と穿さるるひ變化するを得
 ざらし師とやとめ上天て陣しむ

八卦爐中逃大聖

五行山下定心猿

さるほどに玉帝君の孫悟空が罪きこやう上へよろしく斬罪
 行すのどりと大刀鬼王に命とて斬らせ玉の只みの致損後
 るのこつてとてこも悟空が身に傷はくしては是に依て太
 上老君の炉斗ひとて悟空とらうとて乾坎艮震巽離坤兌
 の八卦爐中へおし入を敷きの道人よ命とて是と焼せらるる悟空



悟空

悟
空
潛
身
異
宮
閉
息



則巽宮に鑽り入るがえ来巽の風なり火なりとども大風烟を
吹け眼を開く事ありとて西よりつら眼とおく息を止め
て潜るあり既に四十九日とてとろくの道人相集り爐
をひひく丹を取出さんと其の時悟空身を躍らせて爐中を
走り出耳の中より如意棒と制手出しつらと幸ひは羅されハ
亦是がぬに天上混乱と事大なるまらたまにありて祐聖眞
君自ら三十六員の雷符を引率し靈霄殿の前に戦ふことまじ
斗悟空とてししひろむけられたる文とまると三頭六臂と
なり如意棒と三條の髪と鬘と奮ふ戦ふありこの天将
は勢ひよつらうかく戦ひあぐみてんえにけりけり西方の釈迦
牟尼如来迦葉阿難の二尊者と引はれ靈霄殿にささりた

まひ天將と戦ひと止させむ悟空もまは法像と收め
本相と現し如来の前に進より声を勵し罵り曰く你何
取の者なれば妄に來つて我戦ふいとさうとらや如来を
聞て笑ひむい我の西方極樂世界釋迦牟尼尊者南無阿
彌陀佛なり你が天宮は周次と静めんといふもまたつら
你の何なる道をせん得らるや悟空が曰く我の天地生成の
老猿華果山水簾洞の王なる不老長生の法を學び雲に乘
風に御し一瞬に十萬八千里と往く如来の曰く你我掌の中
のほりてよくけ中と跳し出んや悟空大きく笑ひ如来いふれハ
かく數子たるや我通カ八十萬余里と飛行とせるといふらや
你が掌の中におるやと云も終らぬ如来の掌の上躍り

祐悟 戰霄
聖空 靈殿

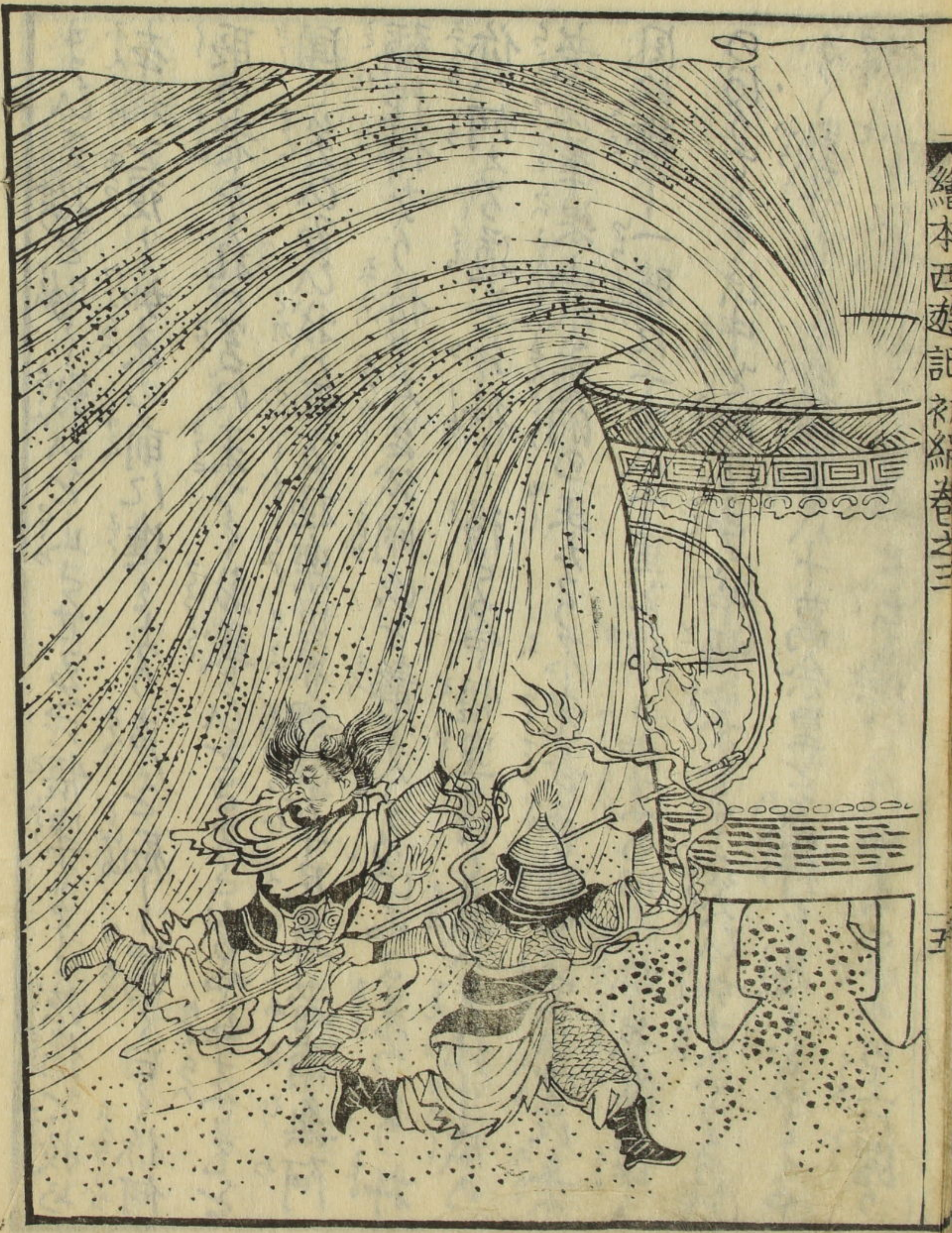


悟空

祐聖眞君

繪本西遊記初編卷之三

六



繪本西遊記初編卷之三

五

上り白雲と起して是にお乗り八九万里も飛行せしむる
所よ赤き大ひたる柱の五根やどかりびまきし悟空は柱の
体になく一根の毛と抜て糸と多し正中の柱に齊天大聖
到此一遊すと書記しやうと雲と飛て如來の内よにまきし我巳
八九万の遠き國に至り五根の柱に記鶴と留り回す如來
其時大きに罵て曰く你野猿の徒何事とら後し得るや先
より我掌の内への往來しと敢て躍り出る事しつゝと你ら
五根の柱と見し我指かり教へし六指とつよとのまきし
あやしむはしつゝむきて見とふれば如來の右の席の中指り
齊天大聖到此一遊すと我掌跡を書記し此に至り悟空
大きにおどろき急ぎ掌の中を花下らんとせし時如來忽と

翻しての中に掲げ西天門より出む五指と化して五行山と
かゝ悟空と山の下に押入を唵嘛呢叭咪吽の六字と金書し
たる札と山の頂にさし付む土土神祇にあせし悟空を守護
せしり饑時の饑丸とあえ渴するぬい銅けと吾し渠が災ひ
免て人の救ひを待しめし

我佛造經傳極樂

觀音奉旨上長安

光陰流るごとく日月梭と擲るより猶もや既に五百余年と
経るらるる如來西天の雷音寺に在し法華經の三藏と南
瞻部州に傳へんとて觀音菩薩と召し錦襪の袈裟九環
の錫杖并に三つの緊箍兒とあえく東土に倒し三藏の經と

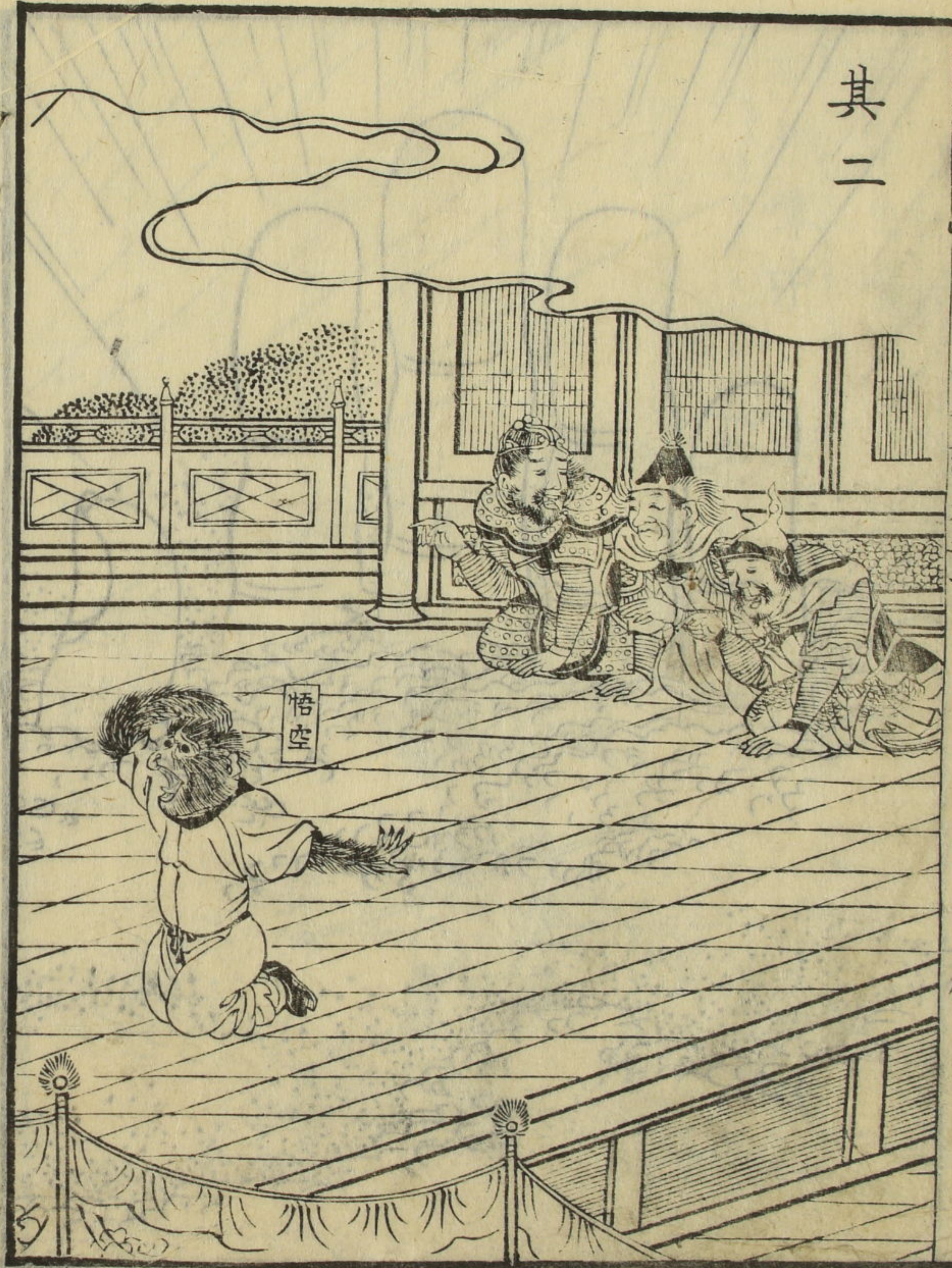


悟空自驚
在佛掌中





其二



取るべき人と需りしめり入観音菩薩謹令承其子
 子惠岸とめしはれ東とて立出む人往なく流沙河と
 大河の岸に至り玉ひ其河幅の廣大なるをたがらておりたるに
 忽ち河の底のぞく巻上りそのうらおそり一氣なる妖魔の
 手に寶杖と提波と蹴まき岸より菩薩に向ひ飛これ
 ば惠岸面前に立ちさう何者なるぞ不礼なりと罵ればかの
 妖魔をくつたつて女いつぬるものを惠岸の曰く我れ托塔
 天王の二太子木叉惠岸是よ在ると則我師父南海觀音菩薩
 なり妖魔是とめて大きに驚き寶杖と投きて菩薩乃
 前に蹲はき謹くやうう我れ原天上靈霄殿より提籃の
 大おなりしう玻璃の盞と打碎き一罰によりく鞭おはく

奉八百餘は下界へ逐下されは河中に身をまづり常に
 食乏しく飢にうりそたあく往來の人あれば是を投
 て食となげ今も菩薩の來迎とて去らば凡俗の僧より
 とおのひとくく吃んとおのひしそを罪さくもあろう
 かれ唯望らくは大怒大愆の菩薩あられそを垂れむ
 我けろくくを救ひむせくせくの大恩こそるく期あふ
 つつばと洞瀑布なりて告あるらるれば菩薩も憐れむとお
 びりり你天上こそ罪を犯し下界に來り殺生とかこひ
 さふに滅罪の期はるるべ我今東土に行き徑をとる人を
 需らんといひ你早く善果に歸してこの徑をとる人の身つみとか
 西天に來り如来とおせむ其の罪と免されてうらび奉職に



觀音

惠岸

汝悟淨
謁觀音
大士



汝悟淨

降るべしと空の妖いよしく涙と流しさるるも我悪と様
 事のたさやうこそ我は何かに居をんてうらめかこ徑と
 こらんとて爰に來る人九人あり我もくく投てこれ
 吃りおも其九つの骷顱いづれもあ中に沈む事
 なく只羽毛のごく浮きたよふかくのごとき我もさへは
 こえのば只思らくは後徑とさる人けまへ來るべうらば菩薩
 打笑ふての玉ぐ你かなしくは是をこ察する事たうれかなうは
 徑と取る人うては所に來るべし且あ中に沈さる骷顱は
 かの流りう用る時りるべきる你が首にかけて徑とさる人を待
 へしとて別法名を汝悟淨と賜り雲に登て東へ飛行之
 は妖魔再おしと恩と謝し水中に入て時のるると待みさる

爰に又いと川の高山あり福陵山と号し山中に洞あり雲
 棧洞と名付くは洞に住妖魔はう面の豕のごく白に一柄の
 釘鉏と執て狂風と發し土砂と飛し忽ち菩薩の胎前
 に馳來る惠岸をそんで袂棍とあふりさへさう留て相執ふ
 彼妖魔我ひながら声と上りとも你は何くの僧とや惠岸
 が曰く我ハ南海觀音の弟子惠岸なり只今師父の佛供はし
 て東方に赴くもや路をいひも通し奉るべし妖魔をそ聞
 て持する釘鉏とかしと投て再拜して菩薩無礼の罪と
 怒し我れと天河の管天蓬元師とてさむらひく酒に酔
 て嫦娥に戯も玉帝の怒りと蒙りは下界へ逐放らむひに我
 其の誤る路と踏錯斗ら候も猪の胎中に入今かくのと死取

大士饒解小
龍罪責



觀音

惠岸



なうなりぬも身に贍うる業となき修ふ常人と取り喰ひて日成
るしん衣をば悪行とつふしと止むらんや示し教ふるうといふ
菩薩聞て宣く你かくのごとく悪心と改むらん日々に其罪除く
ましく文に正果を得るの期あぶらば後東土より經を取んが
るに西天に至る人け所よまらば一你其人の父子となり俱に
西天に至て佛とおせむ災来心消滅し樂界の生を得べしとて
是より法号と賜ひて猪悟能と名付むん妖魔喜事かざり
たぐれ淨して洞中に立ぬも菩薩と東に向ひてをさむる
爰に又一條の龍あり空中に在る菩薩を見く叫ぶ事ほ甚
薩んをばひ你いつくの龍あるべ爰に在る罪とるるやと問む
かの龍答て曰く我の西海龍王の子とら殿上の明珠と燒る

罪に上つてかくのごとく虚空に吊上げられ日ごとく鞭打るるを
三百このご所に誅せられんと後希くの菩薩我命と助け
菩薩とすむい則渠がいすし解き饒し你白馬と名て
徑と取人よまらば西方にありて切とえ登ると云合り洞
の中におちやりもあ其所ときて東の方と看むる遠に
山の上よ金色の光り輝きとら其の惠岸菩薩に向ひてや
らつたの光りえい山を蟠排會をかき乱しとら齊王と聖と
如來の封じを五入五行山より金字の壓帖則かこにあり師又
まらりて看むるがく菩薩則其言にほひの山上に至りて
帖子とらむい一絶の詩と傳しむる

堪歎妖猴不奉公

當年狂妄逞英雄

大士訪
悟空命
後事

唵嘛呢叭彌吽

悟



觀音

惠岸



自遭我佛如来困

何日舒伸再顯功

かゝ旅るとて山やまとりの悟ご空くうが在所ざいしょとたげのよゝの土地とち山神さんじん都みやこて
 出い迹せき悟ご空くうが居ゐ所じょに導まきとる悟ご空くう原げん来らい石せきの匣はこの中なかに壓おさへ
 られ子こと口くちとくち働はたらも身みの一分いちぶんも動うごく事ことならずらの彼か菩薩ぼさつを
 ようりて你なんぢ我われとん知しりとらやと回まわらせし悟ご空くう面めんと上あげし我われとん知しりとらや
 你なんぢとん知しりとらや南海なんかい普ふ陀た落らく迦か山さんの大だい慈じ大だい悲ひの南なん無む觀くわん世せ音おん
 菩ぼ薩さつとんのららざるや向まむら如に来らい我われとん知しりとらや山さんに壓おさへし置おきこのら五ご百ひゃく余よ
 年ねんと終しゆれども取とりし一人ひとりも尋たづねし子しの阿あ耨う者じゃなり我われ今いま前ぜん非ひを悔くはしは
 罪ざい業ごうと免まんととん我われとん知しりとらや大だい慈じ大だい悲ひを垂たりて我われ若に患えんと救きうひしる
 菩ぼ薩さつ是ぜとん知しりとらや論ろんして宣のたまひ我われ今いま如に来らいの作あそびと蒙あり東とう土ど大だい唐たう

國こくにいるら徑みちと取とりし人ひとと尋たづねし人ひとを得えりし你なんぢ其そのが弟あに子ことあらはして
 西さい天てんに至いたりて我われ佛ぶつ門もんと修しゆ行ぎやうとしてしかららし罪ざい業ごうをたりし極ごく楽らくの
 果くわと得とべし悟ご空くうの曰いはし我われ何なに事ことに於おけり菩ぼ薩さつの作あそびにたりしは
 ならずらとん知しりとらや徑みちと取とりし人ひととたづねしてし不ふにたらしとん知しりとらや
 からとん知しりとらや契けい約やくとなりし菩ぼ薩さつの東とうの方かたへたりしひらびしるら大だい唐たう國こくの
 至いたりし師しのらもたりし齊せい頰けんの遊あそびと形かたちとなりし長ちやう安あん城じやう
 へいくら西さい天てんにいくらとん知しりとらやとん知しりとらや

陳光志赴任逢災

江流僧復離報本

梓すし長ちやう安あん城じやうのら周しゆう秦しん漢かんのらこのるら歷れき代だい帝てい王わうの都みやことしてし眞ま小
 龍りゆう盤ばん虎こ踞きよのら上うへ邦はうとし唐たうのら大だい宗しゆう皇わう帝てい貞てい觀くわん十じゆう三さん年ねん丞しやう相しやう魏ゑい

劉李殺
陳生奪
其妻



會不百史已刀編



會不百史已刀編

徴が勸により天下に詔じて儒流明敏の者ハ軍民に抱らば長
安城に來つて應試せしめよと云ふに海加の人の陳草字光茂
と云ふものなり學ハ五車に富又ハ七步にぬる長安に來り應試
し選にあつて状元と賜ひに加の國王に除せられ丞相殿用
山の女温嬌と云ふものと娶てたまふに故卿にたり其母張
氏と推乃と云ふに加に赴んと其途に萬花店と云ふ所にあり
母張氏後條の病に條と云ふ事あり光茂母に食と勸めん
とて鯉魚一口と買て斬る者んと云ふ事ありは鯉眼より金光を
放ち一身金色と云ふ事ありは子の鯉魚にあらば光茂は甲乙
に湖の中に免れぬと云ふ事ありむおもむ母の病と云ふ事あり
とて快氣のいらざればかくて日救を授けりなり又公の首尾を

よろしからしとて其知に一軒の房屋を賃て母を留り置
宿の主劉小二と云ふ者によりつらあつら入れり其母の
妻の温嬌と引具してに加といふ事あり其道中に洪江と
いふ大川あり舟の舟をりてま帰ると云ふ事あり推乃と云ふ
事あり稍水劉洪李彪の二人温嬌の姿色と云ふ事あり勿れ
心を費し川中へ船を出し終に光茂とお殺し屍と云ふ事あり
沈み歎き叫ぶ温嬌を引連れて心の伝ふ事あり稱し劉洪自
から陳光茂と名をとりに加に赴き國王の任にさきんあり
温嬌の姿を恨と云ふ事あり折と見合丈夫の敵と討人のものと
仮に劉洪にまごひぬると云ふ事あり洪江の川中に巡海夜叉光
茂が屍と云ふ事あり龍宮に降り龍王にうこせし龍王其屍

龍王
無隣
復蕪
光蕊



會不百夜巴勿編卷三

又

會不百夜巴勿編卷三

光蕊



とよくくつて是は四我と救ひ助けらる恩人なり何故に川
中に殺されたるやは今と救ひく前日の恩と報せざるやとて斬て
光蕊が魂魄と求りて你ハ何所の人何故に妾に來り殺され
たるやと問ぬも光蕊が魂答く曰く小生の陣光蕊とやて海加
の者らるら及弟に選られに刃に赴く如け川のほとりの劉洪我
妻の色にやとひ我と斬殺しと妻を奪ひて逃げ去りたり龍王
にこれと垂れし我を救ひよとら龍王聞て先生を安じ
よとて下前日放しよひ金色の鯉に我たりは恩と以てかると
先生と救ひよとらとてかの屍の口中に定顔珠と含ませし
龍宮の畜へ置時と待て魂とかへ其仇と報せし人と光蕊
恩と謝しと志ばら龍宮珠に止まりたる

南嶺子秋齋先生著

世間母親容氣

八文舎用ふ儼々物とらるき
繪入よまか 全部五冊

涼花齋芥九大人著

當世誰が身上

一名末代品かがり
繪入よまか 全部六冊

此の桂秋齋先生の作りとある人の親とて
男の子とて女とてかくもるにせむは言
教のその乃違ひ人の人お損失あることと
そ女の母とらるきと徒然の物も侍へよと
世に人の願と解おの門とらる婦童児の教訓
とあり考ふお導記四民とれくの家業を
出情し身と收むも捷徑と女とさるる

此の涼花齋先生の作りとある人の親とて
身とて女とてかくもるにせむは言
教のその乃違ひ人の人お損失あることと
そ女の母とらるきと徒然の物も侍へよと
世に人の願と解おの門とらる婦童児の教訓
とあり考ふお導記四民とれくの家業を
出情し身と收むも捷徑と女とさるる

右のついでに先達の賣出—中川庄求め津江—と下川

津江庄求め津江—と下川

津江庄求め津江—と下川

津江庄求め津江—と下川



Back cover of the book, showing faint, illegible text within a rectangular border. The paper is aged and yellowed.

The Great Hand.